

大東アレル帳

(2)

山の幸に親しむ

— わらびとり —

飯盛山の肩のあたりが、くらんでいきます。

ほのかに霞んでくると、春の山野草が枯葉色の下草をおしわけて芽ぶいてきます。ふきのとうは早くから固い地を割って顔を出し、

たらの芽がふくらみはじめると野ぜり・山うど、やがて握りこぶしのような新芽の早蕨や、白い綿毛をかぶったぜんまいが、山を訪れる私たちを喜ばせてくれます。

うつつらしい菜種梅雨が何日か続いた後の晴れた一日、まだ三月末で「わらびは早いかな」と思いながら友達を誘って、野崎の観音さんの北側あたりに行きました。陽ざしはすっかり春で、樹々の肌はうるおいをおび、楓の若葉が勢いよく芽ぶき、桜のつばみはふ

きます。雑草の新芽やシダの若芽ばかり。

「ないなあー やっぱりまだ早いのかしら」 あきらめかけた時「あった!!」

「ほんと?」 「ホラ見て! 絶対にわらびよ!」

「急斜面を笹を分け滝木につかまりながらはい進みます。『腰をおろして下から上を見上げる』

どの大群落は、この辺には見られませんが、それでも山の北側、地獄谷や八幡山・四条新池・第三配水場あたりは、まだまだ宝庫であるとのこと。

北条にお住いの土地の方にお話を聞きました。「わらびやせいまいなど、昔は自然が恵んでくれる旬のものとして、入用な分だけ朝早く山へ採りに行ったんです。皆さんそれぞれが好きな穴場を持っていたけ

れど、お互いに譲り合った話し合って採りましたよ、帰ってから掃除(固い所を除き、揃えて小分けにくくる)をして、木灰でアクを抜くんですわ!!」

「晩おいて翌日、わらびご飯やあえ物、煮つけなどいろいろに料理して食べます。野崎まいりの時、客のもとにして喜ばれた時など、この地に住む喜びを感じます」とおっしゃいます。

わらびにも茎の青いのと赤いのがあり、青いのはサクサクした歯ざわりであっさりしており、赤いのは少しぬめりがあるっておいしいように思う……とか。

「や」と見つけたわらびを夢中で五、六本採って、フツと手をとめました。摘むにはあまりに幼い姿です。この間の雨で眠りから醒めやと日に向って伸びてきた早蕨。あと四、五日もすれば一人前になるでしょう。いずれだれかに採られるかもしれないけれど、それまでやさしい春の光の中に、そっとおいておきましょう。



春の訪れをつけるわらびとり (野崎観音付近)

やぶ椿・桜・山つつじ・あけび、そして野草たちも可憐な花をつけます。飯盛山には豊かな自然が息づいています。お花見・山菜採り・ハイキング、私たちはこの素晴らしい環境の中でよりよい生活のために、もっと自然を愛し、自然に親しみたいものです。お互いが山のマナーを守りながら……。

(文 酒井昭子)